

No. 1433

6/30 D.B.
7/2 20sp.

鈴木首相外遊

—第一二報—

6月10日、鈴木首相はニューヨークの国連本部で開催中の第二回国連軍縮特別総会に出席。唯一の被爆国・平和国家という立場から約45分間にわたり演説を行いました。首相はこの中で、軍縮の実現、それによって生まれた力を世界経済の活性化と発展途上国への援助増大、国連平和維持機能の強化——の平和三原則を呼びかけました。このあとペルーの首都リマを訪問、リマ市内の大統領府でペラウンデ・ペルー大統領と会談しました。この会談で、両首脳は、国際情勢、二国間問題など広範囲に意見交換を行い、円借款など合計100億を越える経済協力の大筋で合意しました。ペルー在留邦人が力を合わせてつくった「ラ・ユニオンスタジアム」では『母国の総理大臣に一目会いたい』と日系人が歓迎式。首相にとっても、この上ない歓迎式でした。一行は、14日、ブラジルのブラジリアを訪問。セラード農業開発研究所を視察しました。6月3日から16日間にわたる長期外遊、首相のリーダーとしての視野も一段と広がっていくようです。

浜開き

—愛知・南知多—

愛知県知多郡南知多町の浜開き式が6月20日東海地方で一番のにぎわいを見せる同町の内海海水浴場で行われました。中日新聞本社のジェットヘリ「わかづる」から花束、メッセージの投下、祝賀飛行をして式典に花を添えたあと、地元浜業者など関係者60人が出席して、浜に設けられた神前でシーズン中の安全を祈願しました。梅雨空ながら、海水浴客も訪れ初泳ぎを楽しんでいました。

めざすは「千景」

—東京・新宿—

まだあると思っていた建物がいつの間にか消えていき、日々近代化される東京。そんな東京の姿を記録しておきたいとスケッチを描き続けている人がいる。東京新宿に住む木村達次さん(74才)だ。はじめの目標は「東京百景」だったが昨年11月に書き始めてから現在までに560枚になり、「東京千景」に軌道修正した。1日1枚のスケッチで早や1年半になるがこの間にも取り壊された建物がいくつかある。多くの人々に親しまれた有楽町の日劇、文京区目白の椿山荘もいまはない。木村さんは奥さんの竹野さんとふたりで喫茶店を経営。しかしスケッチを始めてから店の方はほとんど奥さんにまかせっきり、おかげで一枚の絵に全力を集中させることができるという。毎朝8時、木村さんはスケッチブックを持って街に出かけていく。雨の日も風の日も決して欠かさない。今日は東京駅にやってきた。明治に建てられたこの建物を近く、取り壊されることになったという。目的の建物が見つからないことも何回もあり、やっとの思いで探し出し、筆をとることもあったという。戦前中国の大連交響楽団の指揮者だったこともあって木村さんは店を音楽教室として開放、ピアノを教えている。木村さんはもともと小さい時から絵心があった。大連の小学校時代には弁当代を節約しても絵の具がほしかったという。音楽活動を続けながら東京の姿を描き続ける木村さん、「千枚かいたら本にしたい」というのがいま一番の夢だ。